

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3ユニットの事業所で、フロアに入ると行事でも使える位の広さの廊下があり、フロア内は解放感があると好評で、この広い廊下で普段は運動やリハビリを行い、車椅子利用の利用者様も楽に移動ができ、ソファや椅子を程良い距離感に設置する事で自由に休息のできる環境となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は西野地区の主要道路に面し、周辺にはコンビニやドラッグストア、児童会館、小学校、中学校、公園があり外出のコースとなっている。母体法人は北海道(札幌、江別、室蘭、函館)、関東、九州などで130を超える福祉事業所を運営しノウハウを共有してサービスに生かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Contains 10 rows of evaluation data.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体の理念、事業所内の理念を見易い位置に掲示する事で共有を図り、日々の実践に繋げる事はできている。	各階フロアに法人理念と事業所理念を掲示し、採用時の研修、月1回のユニット会議で理解を深めると共に日々のケアに反映させて実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や近隣の小学校交流行事、5～12月は児童会館交流定例行事、中学校の職場体験受け入れ等恒例行事となっている。町内会役員とも定期的に連絡調整を図り、地域との交流は充実化を図れてきている。	町内会に加入し、町内のふれ愛夏祭りや河川清掃等の行事に参加している。小中学校の職場体験として受け入れたり、事業所の避難訓練に住民の参加があったりと交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長から回覧板を通して、年2回の避難訓練実施の際には、町内の方へ訓練参加の呼び掛けを行い、訓練時には職員が避難誘導を行い、町内会参加者は避難先で利用者の見守り行なう担当として利用者名簿を活用して誘導確認を行なう事ができ、利用者の特徴や支援方法を活かす事はできている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催、会議にて利用者の状況報告やフロア内での取り組み、毎月テーマを決めて内容を発表、前回の会議からの事故事例、行事内容の報告、ご家族、町内会長や役員、包括支援センターの方達からも意見や助言を得て、会議の内容に関しては議事録をご家族へ送付し、情報の共有を図りサービス向上に努めている。議事録に関しては、実際にアンケートを取り、読みやすさ等の考慮も図っている。民生委員への会議参加依頼に関しては、町内会の方の協力も得て参加要請を図っているが、参加に繋げることができず、ご家族の参加率も低く、会議のテーマ要望をご家族から取り入れることで会議出席に繋げていきたい。	地域包括支援センター職員、町内会役員、地域住民、家族、利用者等が参加し、2カ月毎(年6回)開催している。運営状況や事故報告、避難訓練の案内や講評等を報告し、要望や意見、助言などを得て運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に西区内の管理者と情報交換、手続き等にて区役所へ訪問して情報交換を行い、疑問や問題点に関しては、市へ直接連絡し、他支店とも情報の共有連携を図る事ができる体制であり、地域包括支援センターには、定期的に事業所の取り組み内容や相談、情報交換を行い協力関係を築けるよう努力している。	行政担当者とは密に電話等で連絡を取り合い、生活保護の申請や継続手続き上の疑問などがあれば随時相談している。また、研修や様々な情報を得たり意見交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針は、来訪者が閲覧する事ができるように設置。3ヶ月に1回は他支店と合同で身体拘束適正化委員会を開催し、事業所にて研修を行い、毎月事業所内では身体拘束廃止委員会を開催し、目標をフロアの見えやすい所に掲示し、チームケアを行う事を基本として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3カ月毎に各事業所合同の「身体拘束適正化委員会」を開催し、内部研修をして日常のケアに反映させている。転倒予防策として人感センサーや起き上がりセンサーを設置しており、設置に当たっては家族に同意を得ている。安全上夜間のみ玄関を施錠をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも参加できる情報の提供、実際に参加する事でケア実践に活かす事ができ、事業所内においても、ユニット会議で話し合いの場を設けたり、事業所全体として身体拘束廃止委員会においてもストレス軽減を図りながら業務遂行できるように意見交換を行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識の習得はできているが、職員全員で、実際に話し合い、活用しながらの支援は難しい場面もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時他、直接ご家族に口頭で説明後、文書にて同意を得て、不安や疑問点は尋ね、十分な時間も設ける中で理解・納得は得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、電話等での報告、面会のみならず、ご家族へ意見・要望アンケートを年2回実施、実施結果内容は運営推進会議にて発表、運営に反映している。参加できなかったご家族には議事録を送付して公表している。アンケートの内容やご家族の意見に関しては、書面にまとめ職員間での情報共有にも努めている。	日々の利用者との会話から意見や要望を把握し、家族来訪時に意見や要望等を聞き取るように努め、年2回のアンケートからも意見や要望を把握しながらケアに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内での会議、ユニット会議他、朝・夕の申し送り時間を十分に適宜設け聞き取り意見を反映他、利用者の毎月のモニタリング書式を活用して文書の集約、職員が意見を言いやすい雰囲気や環境作りにも努め、困っている事がないか随時、確認をするように心掛けている。	日常業務や会議で職員の意見や提案を聞く機会があり、出された意見や提案は運営に反映させている。職員の自己評価等から人事考課を行い、個別面談時から意見や提案を聞きながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットごとや個性を生かしてやりがいを持つよう個別でもスキルアップにも努めている。人事考課を年1回行うことで給料面にも評定が反映される仕組みができ、意欲にも繋がっている。パート採用や専門職も取り入れ業務分担を行い、働きやすい環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットごとに実践の中で個別指導、チームとしてかけている部分を取り組みとして上げ技量向上に努め、事業所内においても毎月、職員会議にて研修の場を設けスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の定期管理者連絡会議、区の管理者主催の研修に参加する中で情報の共有を図り、実践に繋げていき、サービスの質を向上できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話での連絡相談にも応じ、入居前には見学をして頂く中で十分な時間を設けている。利用者の状況確認・ご家族の意向を確認、担当者とも情報の共有、密接な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、日常のフロアの様子を見学して頂き、1つ1つ意向を確認しながら信頼関係作りができるよう話し易い雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しをし易い環境作りと雰囲気大切に、意向確認を行ないながら課題分析し、ニーズを把握しての支援他、訪問診療やリハビリのサービスの提供対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて家庭でしていた家事や生活習慣を取り入れながら馴染みの関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来やすい環境作りに努め、不安なく外出を一緒にできるように動作手順や介助方法を実践したり、面会時には日々の様子や支援内容を説明して情報の共有を密に図っている。ご家族にも協力を得られる関係作りができています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報の共有を図ることで、ご家族に限らず、知人の方も面会に来られる関係作りに努めている。	友人や知人の来訪時には、お茶を出してゆっくり話が出来るよう配慮している。毎月訪問する馴染みの理美容や近隣店舗での買い物に同行する等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と一緒に過ごす事ができる環境作りとして座席にも考慮している。日課として行っている家事作業では、役割分担を行い、作業手順を伝えながら見守りの中、利用者同士でも行える作業提供を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも、ご家族からその後の経過の連絡が来る事もある。電話で、ご家族の知人の相談や契約終了後に近所まで来た際に訪問した経緯もある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シート(アセスメント)を活用、ご家族にもシートの記載や聞き取りを行い、利用者の生活歴の把握、互いの意向に添った、ご本人主体のケアをスタッフと話し合いながら実践に努め、場面に応じて、ご家族もケアに参加されている。	日々の会話、表情、家族の情報などから意向の把握に努め、意思疎通が困難な時は動作や表情から職員間で推察し家族に確認しケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら、これまでの暮らしの把握ができるよう、ご家族には入居前、入居後も話題提供を行ないながら把握に努め、信頼関係の構築にも繋げている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、1人1人の生活リズムを把握、できる事・できる可能性のある事は状態に応じて取り入れていき、状態観察や動作の見極めを行いながら把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が毎月モニタリングを作成していき、状態変化時と半年に1回は、センター方式を活用して利用者の意向確認、気持ちを汲み取りながらユニット会議にてスタッフ全員で課題分析を行い、ニーズを抽出して介護計画を見直し、作成している。	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、短期6ヶ月、長期1年で見直して介護計画を作成し、家族の承認を得ている。状況変化時には新たに介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施内容を中心に記録の充実化を図り、ケア実践の結果、日常の様子、状態変化時には具体的に詳細を記載して職員間での情報の共有を図り、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の活動には、定期的に参加して交流を図ることはできているが、既存のサービスがメインであり、新たな支援やサービスを今後の目標の1つとして取り組んでいきたい。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練、運営推進会議には町内会長・役員が率先して参加、町内の方に必要な呼び掛けをしてくれている。地域交流行事として、町内会や近隣小学校の行事にも率先して参加している事で馴染みの関係作りもできている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導を行い、利用者の生活に対する指導・助言があり、ご家族にも書面にて送付。往診先以外でもご家族や利用者の希望意向に添った対応、症状に応じて専門病院受診も行っている。提携先に限らず、ご家族やご本人の意向に応じて、かかりつけ医の変更も行い、適切な医療を受けられる支援はできている。	かかりつけ医の選択は本人本位とし、受診の継続を支援している。協力医は2周毎に往診を行い、看護師が週1回の訪問で健康管理に努めている。協力医とは24時間の医療連携を取っており、迅速な連携が図られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理に週1回看護師が訪問時には、体調面に限らず、日常の様子も伝え情報の共有を図っている。状態に応じて往診医との連携も図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、安心して治療できるように病院関係者との情報交換、共有を図り定期的に面会や電話での状態確認を担当看護師へ行き、早期に退院できる環境作りを往診先とも連携を図り、受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症状の進行状態や重度化した場合の説明を随時行っていき、ご家族と情報の共有、意向を確認していき、ご家族の希望により、往診医と連携を図る中で、ターミナルケア指針の説明同意を得て、チームとしてできる必要なケアをユニット会議にて検討、看取りケアも実践している。	入居時に「重度化した場合における(看取り)指針」を説明し利用者や家族の同意を得ている。重度化したときは早い段階で主治医に相談助言を求めながら、今後の予測と方針について段階毎に家族等に看取りの意思確認を行うこととしている。2名の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置、使用方法をフォローアップ研修を行い、利用者の病状の理解、急変時の対応は、マニュアル活用、状態に応じてユニット会議にてフォローアップ研修を随時行い実践に繋げている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練年2回(夜間・日中想定)実施、地震災害による避難訓練、風水害の訓練も実施。防災訓練時、町内会長・役員も参加、実践して運営推進会議にて意見交換を行い、改善に繋げ、協力体制を築いている。	地域住民が参加し、消防職員立ち合いのもとで夜間想定火災訓練と総合訓練を年2回実施している。また、台風などの自然災害を想定した訓練を年1回実施している。訓練の講評は運営推進会議で報告している。数日分の飲料水、食料品(各階保存専用の冷凍庫)を備蓄し、ポータブルストーブ、電池照明を備えている。	想定外の自然災害に備えてマニュアルや備蓄品の見直しや強化(系列のグループ間同士で連携)を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉掛けにも工夫を図り、謙虚な姿勢を心掛けている。	行動抑制や不適切な言葉を使わないように配慮し、職員間で都度注意をするように努めている。回覧板では利用者の写真など個人情報記載に注意し、重要な書類は施錠した事務所内に適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今何をしたいのかを聞いたり、意向確認をしていく中で、自己決定できる働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思決定をできる環境作り、意向確認をしながらその方らしい1日の生活リズム作りを努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は、その方らしいヘアスタイルでいれる支援、男性は、訪問美容先を変更し訪問内容にて髭剃りを行う事で満喫できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて可能な限り、食材切りから盛り付け、得意とする献立では関わりの中で1品を完成、分担して後片付けを行っている。音楽を流し職員と一緒に食卓を囲み、食事が楽しみとなる雰囲気作りに努めている。	メニューは本部の管理栄養士が決め、業者から配達された食材を利用者に合わせて職員が調理をしている。多くの利用者は能力に合わせて調理参加をしながら食を楽しんでいる。誕生食はユニット合同でケーキや出前、季節の行事食、バーベキュー等の食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士指導管理により、バランスの取れた食事提供、食物繊維やビタミンも必要摂取量が摂れるようにしている。代替えや禁食、食事形態にも工夫を図り、治療食も取り入れられている。水分量は摂取ごと記載し嗜好品も取り入れながら摂取量の安定を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月2回は歯科往診があり、歯科医からの指導アドバイスを受け、食後に口腔ケアを行なう習慣化を図れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	シートを活用して、1日の排泄パターンを把握していき、トイレでの排泄を中心として誘導支援を行っている。	排泄表で個々のパターンを把握し、目立たない声掛けや時間誘導のほか動作やサインを見逃さないように努めトイレでの排泄を支援している。利用者の状況に合わせてリハビリパンツ、パッドサイズなどを使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の摂取量の把握、米飯に食物繊維を取り入れ、他乳酸菌の提供、運動も取り入れ、担当医と相談や検討、状態に応じて排便のコントロールに努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の利用者の気分や体調、状態に応じた対応を図っている。	週2回午前中の中の入浴を基本とし、回数や入浴時間など利用者本位とし同姓介助などは要望に沿うように配慮している。状況に合わせてシャワー浴、清拭、2人介助を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心のできる環境作りに努め、音楽を流したり、ご家族の意向により、アロマセラピーを取り入れ安眠に繋げ、利用者の特徴に合わせた対応も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴の理解、服薬情報に関しては常に確認のできる状況であり、居宅療養管理指導により薬剤師による薬剤管理セット、助言指導を受けれる環境にもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に家事作業の提供、畑作業、日々能力に応じた役割の提供他、利用者の性格や特徴に合わせて飲酒、運動やアクティビティの提供にて気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域交流(恒例行事)や季節感を感じれる行事、利用者の嗜好品も取り入れた外食ツアー企画、散策に出かける習慣化も図れている。近所のコンビニ、ドラッグストアと一緒に買い物をしたり散歩、戸外で畑作業の機会も設けている。	近隣散歩で住民との会話や挨拶で交流し、町内での輪投げ大会や地域のふれあい夏祭りに参加したり、小学校の運動会を見物する等交流を深めている。ドライブで五天山で紅葉狩や桜並木見物、外食をする等外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な場面にに応じて、買い物の際にご本人が支払いをできる支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や状態に応じて、いつでも対応支援している。知人・友人からの手紙、年賀状のやりとりの支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の広さを活用して、程よい距離感にソファや椅子を設置する事で利用者が自由に座って休息したり、ゆったりと過ごす環境作り、廊下に面した壁2面に広いスペースがあり、季節感を取り入れた飾りや作品を掲示している。台所も利用者と職員が一緒に作業のしやすい作りになっている。	共用空間は広く、居間兼食堂にはゆとりあるテーブルやソファが配置され、利用者が好みの場所で穏やかに過ごしている。壁には職員紹介写真や行事写真、季節毎のイベントに合わせた飾付をし、明るく居心地の良い雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のスペースでありながら利用者が過ごしやすいソファの配置をする事で、利用者によって馴染みの場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた愛着のある馴染みの物を持ち込んで頂き、ご家族の写真や趣味の絵を飾ったり、意心地の良い環境で過ごす環境作りに努めている。	居室は窓が大きく明るく、温水暖房パネル、ナースコール、クローゼットが備え付けられ清掃が行き届いている。使い慣れたベッドや整理タンス、椅子、仏壇、テレビ等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう配慮され生活感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう支援方法に工夫を図りながら、日々の生活状況や性格・特徴を掴み、把握に努めながら安全で安心のできる環境の中、できる事、得意とする事を取り入れている。		